

学部・研究科	文学研究科 M2
トビタテ 期	第 5 期
コース	■ 新興国コース
留学計画のタイトル	少数言語を救え！ムラユ語圏に還元せよ！インドネシア教育大学で現地語の学習を行う傍ら日本語教師として勤務し、マレーシアで少数民族の言語・文化を保護するためのフィールドワークを行うよくばり留学
派遣先・地域・機関	インドネシア・インドネシア教育大学 マレーシア・シナラン民宿
期間	2016年9月10日 ～2017年3月21日（7か月間）
実践活動の種類	<input checked="" type="checkbox"/> インターンシップ（無給） <input type="checkbox"/> インターンシップ（有給） <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア <input type="checkbox"/> PBL <input checked="" type="checkbox"/> フィールドワーク <input type="checkbox"/> 支援企業コラボインターンシップ <input type="checkbox"/> その他_____
留学プログラム	<input type="checkbox"/> HUSA/USAC <input type="checkbox"/> その他学内プログラム_____ <input checked="" type="checkbox"/> その他_____
派遣先機関のを見つけ方 コンタクトの取り方	<p>2015年の時 G. ecbo（海外グローバルインターンシッププログラム）で派遣されたインドネシア教育大に帰国後メールや Whatsapp で連絡をとった。</p> <p>マレーシアの村は友人の父の出身村だったため、親戚に連絡を取ってもらった。Facebook のメッセージ機能とメールを使用した。</p>
留学した理由	<p>言語学を専攻しており、先住民の言語に興味があった。現地へはすでに2回フィールドワークへ行ったことがあった。論文の為にフィールドワークを行いたいと思ったため、媒介言語となるマレー語・インドネシア語の習得ができ、かつ日本語教師としての経験を積める滞在先があったため、留学を決意した。</p>
留学前体験談 <input checked="" type="checkbox"/> 計画作成のコツ <input type="checkbox"/> 面接のコツ	<p>理系のトビタテ生（START時代の友人）に計画書を見てもらった。専門分野が異なる人にもわかりやすく説明するよう努力した。また自分の留学計画は「社会」や「世界」、「人間」に必要性がある計画であるとアピールした。「数値」や「自分が目標の為に今までどんなことをしてきたか」で具体性を出し、計画の実現性が高いことをアピールした。</p>
留学中体験談 <input type="checkbox"/> 成功体験 <input checked="" type="checkbox"/> 失敗体験	<p>1月にインドネシアの長期休暇がある。その時期にマレーシアにフィールドワークへ行く予定だったが、ビザの発行が遅れて計画変更届を提出することになった。あの時のバタバタは思い出すだけでぞっとする。嘘でも「チケットをもう予約した」と言い毎日インドネシア教育大学国際センターに顔を出していれば、計画通りに物事が進んだのではないかと今でも思う。</p>

<p><b>留学全体の体験談</b></p> <p><input type="checkbox"/>トビタテでよかった事</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>留学前後で変わったこと</p>	<p>今回の留学では特に自分の進路についてのビジョンが劇的に変化した。不安から安定を求めて、自分のしたいことを諦めよう。落ち着こう。と考えていたが、フィールドワークの際に出会った人々やその暮らしを見ていると自分はこのままでいいのか、という疑問が出てきた。インドネシアのバンドンでも、そんなに裕福ではないはずなのに、売り物のご飯をくれたおばあちゃんやバスで隣に乗っていただけなのに、お菓子やティッシュをくれたおじさんやお兄さんなどが大勢おり、「よく生きる」ことについて考えさせられた7か月だった。</p>
<p><b>広大生にひとこと</b></p>	<p>トビタテに申請するのは無料なので、迷っていたら是非申請してみてください。自分が挑戦したいことが実際にできるのは素晴らしいことです。</p>

よろしければ今回の留学の雰囲気が分かる写真とタイトルを記載してください。



Sina Rang おばあちゃんと



フィールドワーク